

『説得より納得』 士師記6章11～23節 2018.2.18(主日礼拝説教より)

『…あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。』 コロサイ 4 章 1 節

人が、神のすべての御心を十分に確信して立てれば、いつも堂々と生きてゆける！ どうすれば、御心を十分に確信できるのだろうか。

① 士師の時代の特徴(17:6、21:25)…『そのころ王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた(17:6)』。民は御心に背き、裁かれ、苦しみ、叫び、士師により救われ、また不信仰へ…を繰り返していた。そんな時代にギデオンは、ひっそりと生きていた(6:11)。

② 小心者が勇士に！(6:17)「ああ主よ(6:13,15,22)」と叫ぶギデオンは「小心者」だった。神は「勇士よ、主と共に(6:12)」と励ますが、彼の答えは悲観的…「自分には力がなく、経験もない(6:15)」！★神から見たクリスチャンは、罪の世で輝く光なのに、実際はギデオンのよう!? どうすれば、御心に生きる勇士になれる？ 彼は、神の言葉が本当かどうか「しるし」を求めた！ ①6:16～22 用意した供え物を主の使いが焼き尽くし、大勢の仲間が集められ、②6:36～40 一頭分の羊の毛によって、さらに納得のいくしるしが与えられ、③7:2～8…13 万人以上の敵に対して、ただ神に信頼する油断なき 300 人を選ばれた神は、④7:9～15…敵地の視察を促し、決定的な納得を与えられた！ かつての小心者・臆病者のギデオンは、主の宣言通りの『勇士』として闘い、圧勝する！

③ 最高の自分(天の父なる神様の御心)を生きるために(マルコ 16:15～20)…今の時代、私たちは何と闘い、どんな勝利が期待されている？ 愛が冷え、人と人が敵対する終わりの時代に対する神の最大の命令は「大宣教命令」(マルコ 16:20)『彼らは…至る所で福音を宣べ伝え…主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた』。世に対する最大の証(御言葉の確かなしるし)は、神の子たちが、どんな違いも越えて『互いに愛し合う』姿(ヨハネ 13:35)！ その愛こそ福音宣教のゴール！ しかし愛し合おうとする時、忍耐や闘い、失望や躓きが起こる。その時私たちも、ギデオンのように、神に向かって、確かなしるし、納得のいく奇蹟を求めればよい！

★私たちの弱さを知る神は、御心を納得させるために、言葉、状況、人を用いて十分に納得させてくださる！ その時人は御心に歩み、ベストな自分を生きる！